

仏像の見方

(講演) 渡辺文雄

1 仏像とは

本来は仏教の創始者である釈迦牟尼(ゴータマ・シツダルタ)が悟りを得て(成道)、仏陀(如来)となった姿を表したものであるが、後にはその修行中の姿を写した菩薩をはじめ、明王や天部など仏教における礼拝像のすべてを仏像とよぶようになった。

2 仏像の起源

釈迦の像は、その在世中よりも死後も長い間作られなかった。仏像が初めて出現するのは、紀元一世紀後半、ギリシャ・ローマ文化の影響下にあったガンダーラ地方(現パキスタン・アフガニスタンの一部)において、先ず仏伝図として成立、後に単独像として表わされるようになった。一方、紀元二世紀、中インドのマトゥラーにおいても、純粹にインド的な作風の仏像が生まれている。

3 仏像の種類とかたち

(1) 如来 仏陀、すなわち悟りを開いた者、真理を悟った

者の意で如来像の基本は釈迦の姿を表したものの。

仏の三十二相 肉髻、螺髻、白毫、衲衣、曼

網相など

釈迦 最初の仏陀、仏像の基本形。

施無畏・与願印、禪定印、説法(転法輪)

印、降魔(触地)印

(脇侍) 文殊・普賢

(眷属) 八部衆、十大弟子、十六羅漢

薬師 衆生の病をいやし、寿命をのばし、災いを

除く。

左手に薬壺をのせる。右手に三界印をむす

ぶ。

(脇侍) 日光・月光

(眷属) 十二神将

阿弥陀 西極楽浄土にあって、衆生の成仏往生を司

る。

阿弥陀の定印、来迎印、九品の相

(脇侍) 観音・勢至

盧舍那仏 仏世界の法を人格化したもの (法身仏)、

釈迦はその分身と考える。千葉花卉の蓮華座に坐る。

大日 盧舍那仏が密教の主尊となったもの。宇宙

の根源。

金剛界 大日如来の智徳の面から見た世界。

智拳印

胎蔵界 その慈悲の相から見た世界。法界

定印

その他 金剛界・胎蔵界五仏など

(2) 菩薩 悟りを求める者、仏陀となることを予定された者の意で、本来は成道前の釈迦のこと。後には、在家にあっても仏陀たらんと修行する者すべてを菩薩とよぶようになった。

宝髪(髻)、宝冠、裳、天衣、臂釧、腕釧、足釧、胸飾など

弥勒 釈迦の後継者、兜率天にあって仏滅後五十

六億七千万年後に娑婆に下生し、三会の説法により一切衆生を済度する。半跏思惟相、

小塔護持相、如来相

観音 補陀落浄土に住し、西方極楽浄土の阿弥陀

にかわって衆生を済度・教化する。根本は聖(正)観音だが、済度する相手によって、さまざまに姿に身を変じる。

さまさまな姿に身を変じる。

変化観音 六観音、三十三観音

十一面、不空絹索、千手、如意輪、馬頭など

地藏 弥勒が下生するまでの無仏時代に、娑婆に

あって地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上にいたる六道の衆生を教化・救済する。

六地藏

剃髪・比丘相に、多くは宝珠・錫杖を持つ。

(3) 明王 その他 文殊、普賢、日光、月光、勢至、虚空蔵など密教の中で新たに生み出され、仏(大日)の発する真言(聖なる言葉)のもつ靈力を具現した

もので、仏の教令を奉じて威をもって難化の衆生を教化する。

多くは忿怒の相に表され、武器をとり、火焰を背に岩座あるいは瑟瑟座に立ち坐る。

不動 明王の中心的存在であり、大日如来の護法

仏とされる。護摩法の本尊であり、修験道の守護仏でもある。

右手に剣をとり、左手に索を持ち、髪を

弁髪に結び、両眼を見開き、牙を表わす。

単独像が多いが、二童子（矜羯羅・制陀

伽）、八童子を従えることもある。

五大明王 不動、大威徳、降三世、金剛夜

叉、軍荼利

その他 愛染、孔雀など

(4) 天部 仏教成立以前からインドで行われていた民間信

仰やバラモン教などにおいて、祈祷や信仰の対

象となっていた諸神を、仏教の中に取り込んで

護法神、護世神としたもの。武裝形、鳥獸形、

多面・多臂形などその姿は多様である。

梵天・ 帝釈天 ヒンドゥー教のブラーフマン、インドラ

のことで、創造神、天空神を意味する。

四天王 須弥山の四方にいて、仏法を護持する。

持国、増長、広目、多聞

毘沙門 多聞天が単独で信仰されたもの。王城の北

方にあつて王城鎮護の役を果たす。

その他 十二神将、十二天、金剛力士（仁王）など

4 仏像の技法

(1) 金銅仏 蟬型法 合わせ型法 吹き寄せ法

(2) 塑像 木心塑像

(3) 乾漆像 木心乾漆像

(4) 木彫仏 一木造 割矧ぎ法 寄木造

5 造仏の画期

(1) 飛鳥・白鳳時代

(2) 天平時代

(3) 弘仁・貞観時代

(4) 藤原時代

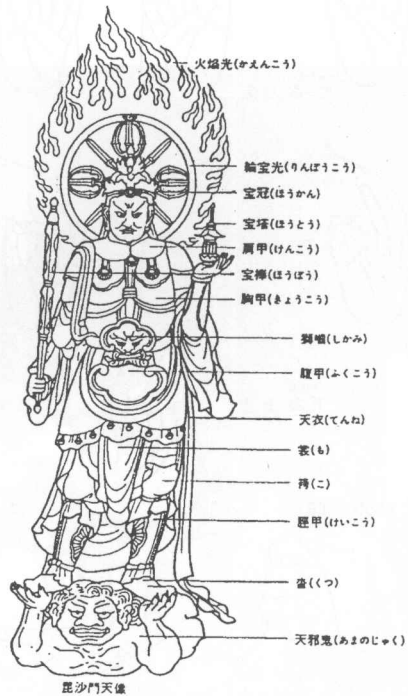
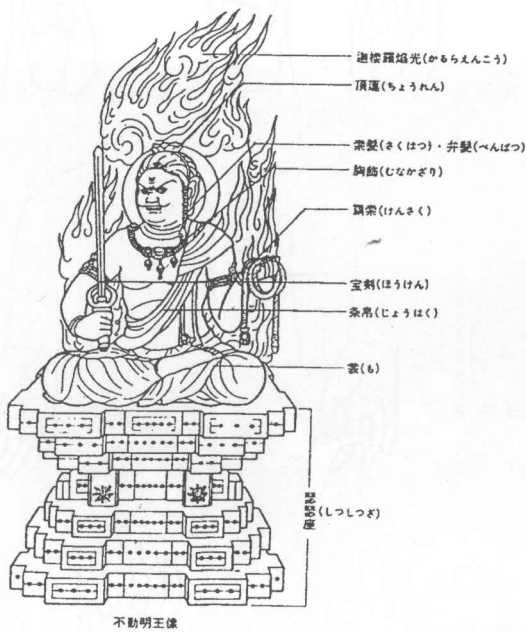
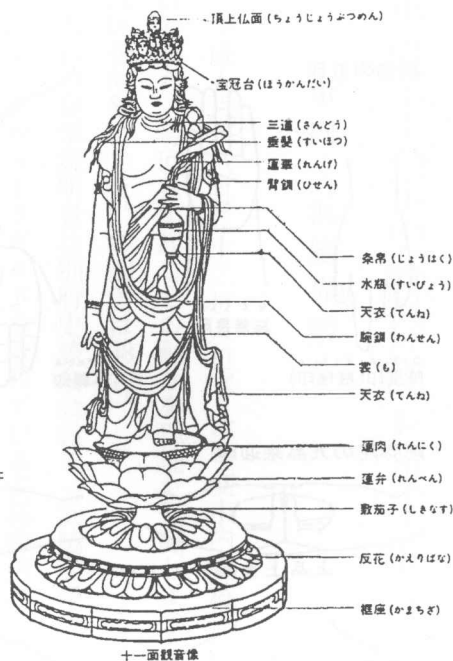
(5) 鎌倉時代

6 仏師の流派

止利仏師 大仏師定朝 運慶・快慶

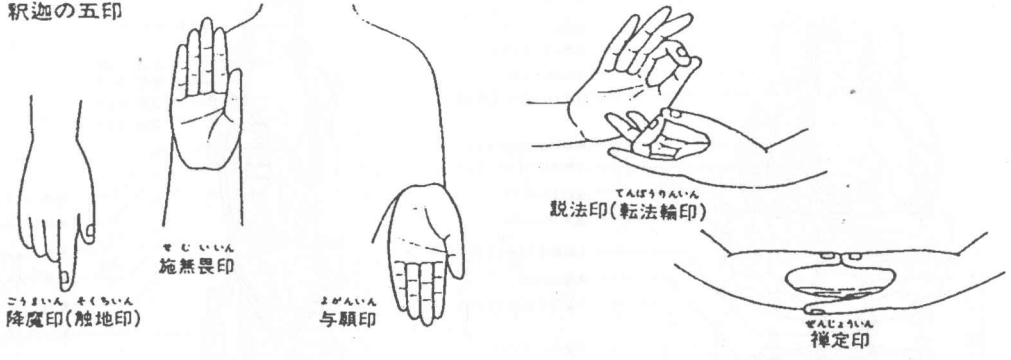
慶派 院派 円派

中央仏師と地方仏師

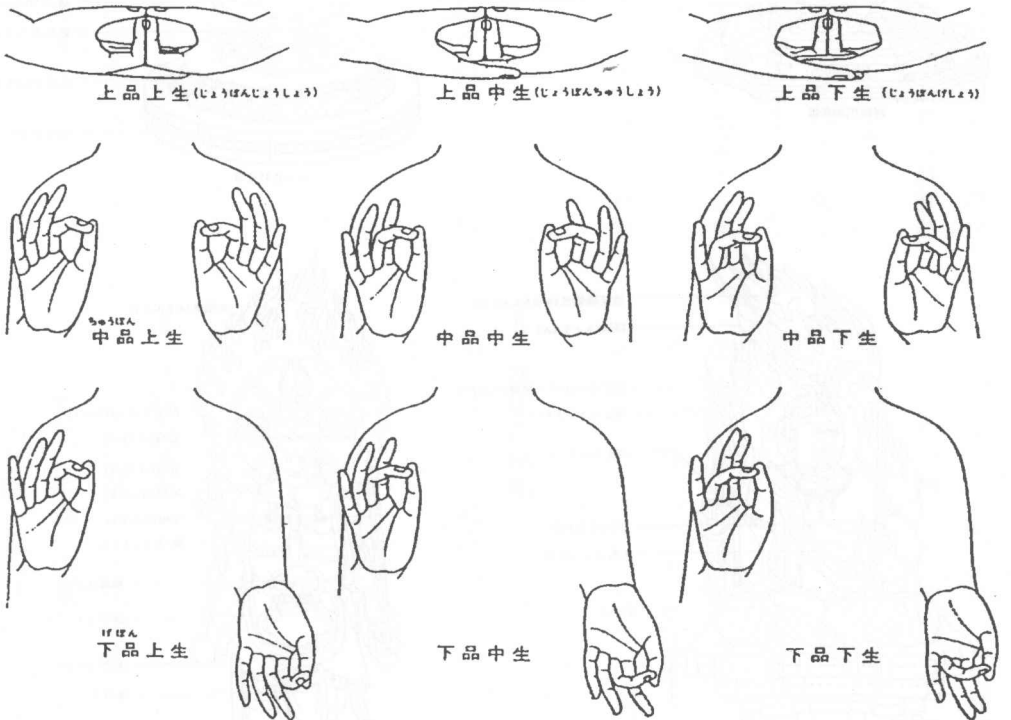


吉川弘文館『仏像図典』より

釈迦の五印



阿弥陀の九品来迎印



大日の二印

